

ロゼッタネットは今や実業の世界で活用拡大！

ロゼッタネットは1998年に「インターネットを活用した、グローバルで効率的なサプライチェーン構築を目指すビジネス情報交換の為に非営利の標準化団体」として米国で設立された。日本では00年にロゼッタネットジャパンが唯一の提携組織として設立されている。

その活動を振り返ると00年までは、ロゼッタネットのグローバルな組織、運営の基礎作り、基本的な標準の開発及びテストの期間であり、ロゼッタネットジャパンが本格的に活動を始めた01年から、ロゼッタネット標準が実業の世界で実際に活用され始めた時期となる。

日本ではOrder Management in Japan (OMJ) が発足し、3年間で受発注プロセスから、在庫情報、需要予測等へ随時適用プロセスが拡大され、OMJだけでも延べ281社間で16種類のPIPを使用した1249の接続が成されている。

ロゼッタネットでのサンプリング調査では、03年度実装パートナー数768社、使用PIP数489で2998接続との実績が発表され、02年度対比接続数で75%の伸びを示している。加えて設計開発等での技術情報交換の世界でも、カタログ情報交換、新製品技術情報交換から、現在大きな社会的な課題である「環境情報交換」、技術仕様書の交換等の新しい試みも進め

られている。

このように、ロゼッタネット標準は実務に即した形でビジネスプロセス全体を網羅する標準となりつつある。

更にロゼッタネットは2002年UCC (Uniform Code Council inc.) との合併を発表、03年6月にはOASISとの連携も発表しており、そのシナジー効果により、更なる他の標準化団体及び産業分野とも連携した活動が推進されている。

又、ロゼッタネットは、新しい業界分野にも浸透しており、新しく組織化されたものとして、欧州を中心にモバイル分野のテレコムカウンシルの設立。そして各カウンシルを横断的に物流面で見ていくロジスティックカウンシルが設立された。

このように今やロゼッタネット標準の実装は急速に実業の世界で業界を跨って大きく拡大し、グローバルサプライチェーンの構築が進んでいる。

UCC (Uniform Code Council inc)

米国で25万のメンバー企業を持つ流通業界の標準化機構として様々な業界における電子商取引や商品の識別に関する標準化を推進している非営利の団体。

OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards)

XML関連の標準化を行っている非営利団体

ロゼッタネットの歴史

1998	● ロゼッタネット設立 (米国) ● RNアメリカ設立 ● ITボード設立
1999	● ロゼッタネット欧州設立 ● ECボード設立
2000	● ロゼッタネットジャパン設立 ● ロゼッタネット台湾設立 ● SMボード設立 ● ロゼッタネットシンガポール設立
2001	● ロゼッタネット韓国設立 ● SPボード設立 ● 実装接続1000件超
2002	● ロゼッタネットマレーシア設立 ● UCCとの合併発表 ● 実装接続2000件超
2003	● ロゼッタネットフィリピン設立 ● テレコム (TC) カウンシル設立 ● ロゼッタネット中国設立
2004	● ロジスティックカウンシル設立 ● ロゼッタネットオーストラリア設立調印
ロゼッタネットジャパン	
	● Order Management in Japan (OMJ) 発足 (6社) 受発注系PIP実装推進 OMJ-Extended/Advanced (~04/3) ★ 累計実装成果 281社 1249接続 ROI調査、シミュレーションツール公開
	● Design Information Exchange Program発足 —日本提案PIP2A10発
	● Material Composition Program参画 (環境情報交換)
	● CB-VMI (輸出入物流情報交換) WG発足
	● Engineering Information Management Program発足 (設計関連情報・技術仕様書交換)